

## 図書館情報学から見た社会情報と情報メディア

テーマ「社会情報と情報メディア ～図書館情報学を架橋に」

跡見学園女子大学  
長谷川幸代

社会情報学会、情報メディア学会共催 シンポジウム 2022/06/25

1

## 概要

1. 情報メディアとは？
2. 図書館情報学とは？
  - 過去と現代での捉え方
  - 今、これから必要とされる分野
  - 何を補うべきか
3. 社会情報学を視野に入れる必要性
4. これからについて考えること

2

## 1. 情報メディアとは？

「人間の情報伝達、コミュニケーションを媒介するもの」

「情報メディア」, 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, <https://japanknowledge-com.atomi.idm.oclc.org/>, (参照 2022-06-24)



「人と人とのコミュニケーションを実現する社会的システム」

『図書館情報学 第二版』上田修一、倉田敬子編著 勁草書房 2017

図書館もこれに  
該当するのは

3

## 2. 図書館情報学とは？

- 過去、現在で捉え方が異なる  
→時代の変化を受けて、学問の枠組みが変化する

例) 図書館学から図書館情報学へ

例) 図書館情報学が指す「資料」の変化

4

## 「図書館学」と「図書館情報学」

- 図書館学 (Library Science)

「**図書を中心とした**資料の収集、保存、提供を主たる機能とする図書館の本質とその経営、サービスなどを対象とする図書館に関する学問。1970年代以降、図書館業務のコンピュータ化、情報処理の進展に伴い、図書館学は図書館情報学library and information scienceへと名称を変えていった。

「図書館学」, 日本大百科全書(ニッポニカ), JapanKnowledge, <https://japanknowledge-com.atomi.idm.oclc.org/>, (参照 2022-06-22)

5

## 「図書館学」と「図書館情報学」

- 図書館情報学 (Library and Information Science)

図書館学に情報学が付け加わった研究領域。図書館学が中心とする図書館にかかわる諸現象、具体的には、制度、運営、書誌コントロール、資料、サービス、利用、それに施設などに**加えて、情報やメディアの性質、それらの生産から蓄積、検索、利用までの過程**を対象とする。実際には、米国のlibrary schoolが、**コンピュータの利用や情報検索などをカリキュラムに取り入れ、school of library and information scienceと名称変更し始めた1960年代初めに起こり**、Encyclopedia of Library and Information Science(初版1968-2003)やLibrary & Information Science Abstracts(1969-)が刊行された1960年代末に確立したと考えられる。

「図書館情報学」, 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, <https://japanknowledge-com.atomi.idm.oclc.org/>, (参照 2022-06-22)

6

## 「図書館学」から「図書館情報学」へ

扱う資料、分野の変化による名称変更

資料の収集、保存、提供  
(図書を中心として)

制度  
運営  
書誌コントロール  
サービス  
利用  
施設

情報やメディアの性質  
+ 生産、蓄積、検索、利用

7

## 「資料」から「情報資源」へ

### 情報資源

以前は、図書館用語で「資料」と呼ばれていた  
インターネット情報源が加わり「情報資源」へ

図書館では...

図書、雑誌、新聞、視聴覚資料(CD、DVDなど)・・・  
加えて、ウェブサイト・ページ、データベースなど・・・

情報メディアの理解と活用が不可欠 → それにより、より良いサービスも可能

8

## 図書館資料を理解し提供するために

- ✓ 進歩する情報メディアの知識を取り入れる
- ✓ 情報メディアの効果的な活用を検討する
- ✓ 法制度を理解し、情報メディアを正しく活用する  
(著作権法、読書バリアフリー法など)
- ✓ 多様なデータを効果的に扱える  
(データキュレーション、ビックデータ、メタデータ付与など)

9

## 「図書館情報学」 今、今後、必要とされているであろう分野

- ・データから価値を生み出す  
情報の蓄積、整理、提供(付加価値を付けて・・・) 
- ・「図書館」が存在する社会、地域の理解  
社会そのもの、地域そのもの、その中で運営する手法
- ・利用者を理解するための手法  
統計、心理、行動
- ・進歩するメディアや関連法の理解  
メディアそのもの、利用者、効果的な利用、問題点  
メディア利用をめぐる法制度の変化への対応

10

内容は時代によって変化していく

Q. 今後、何を補っていったらよいのか？



11

## 3. 社会情報学(や他分野)を視野に入れる必要性 利用者理解(利用者研究)の中で・・・

- ・利用者の傾向を数値化する(データ集計、解析)  
例) 相関分析、多変量回帰分析、パス解析  
研究例) 利用につながる要素に何があるのか？
- ・利用者の行動、思考を考える(心理学、社会心理学)
- ・メディアの特性と利用傾向を知る(メディア論、情報メディア)  
例) メディア利用と心理尺度を交えた検討  
研究例) SNSで発信する人は、自己肯定感が高い？

12

### 実際の現場で・・・

- ・課題解決支援、テーマ展示、イベント開催など  
(社会状況の把握、社会的ニーズの理解)
- ・運営方法、評価方法の理解  
(PDCAサイクル、統計データ、評価指標など)
- ・図書館のPR  
(情報発信、サービスの認知度を上げる、新規利用者)
- ・地域との協同のための地域理解  
(地域資料の保存と提供、利用者との協同、他機関連携イベント)
- ・場としての機能、交流  
(建築、社会関係資本など)

13

### 4. これからについて考えること

社会全体の状況、人間の心理やコミュニケーション、ネットワーク、社会関係資本等を考えていくべきでは？

そのためには、社会情報や情報メディア及び他分野との協力、協同、連携が必要ではないか。



14

ご清聴ありがとうございました



15